

2016年12月2日

## 新素材 洗濯機で洗えるシルク100%肌着「TAMAMONO」について

### 1. ブランド名「TAMAMONO」の由来

世界初の洗濯機で洗えるシルク100%の新素材で製品を作らせていただくことは、私にとって大変光栄な事とともに、大きなチャレンジで、プレッシャーもありました。最良の形でこの世に出したいという思いが強く、ブランド名はなかなか決めることができませんでした。

そのような中、第二子の出産を経験し、生まれ出た我が子の命を目の当たりにした時、感動とともに、「玉のように美しいとはこのことだ」と感じました。

絹糸を生み出すお蚕様は天の虫と書きます。天の恵み、お蚕様からいただいた命の**賜物**であること。繭から生糸へ、織物へと加工する技をこの日本で懸命に繋ぐ人々の努力の**賜物**。そして「洗濯機で洗えるシルク」に昇華させた「SHIDORI®」技術の**賜物**によって、弊社製品を作らせていただいています。

人生の歩みと、様々な関わりの中でシルクに携わることへの感謝の気持ちが、「玉のように美しいもの」「賜物」というインスピレーションにつながり、「TAMAMONO」というブランドネームとすることにしました。

### 2. 「TAMAMONO」に込めた思い

「お母さんの胎内に宿ってから永遠の眠りにつくまで、いつも一番側に寄り添うお守りのような肌着でありたい。」という思いを込めて製品開発を行っています。

シルクの魅力を最大限に感じ取ることができる「TAMAMONO」で、男女あらゆる世代の方に、身につける安心感と心地よさをお届けしたい。さらにその拡販により日本のシルク産業の復興の役にたちたいと思っております。

### 3. 「TAMAMONO」開発の経緯

#### ① きっかけ

シルクで肌着を作るきっかけは、代表加藤がアトピーに悩まされる幼少、青春期を送ってきた経験からです。さまざまな治療や、生活習慣の改善を試みる中、もっとも肌に一番近く身につける肌着を見つける事はとても大変でした。肌に優しいと言われるコットンの肌着でさえ、肘を伸ばすだけで皮膚が裂けるほど症状が悪化している時には刺激を感じ、それがまた痒みにつながるという悪循環の中、唯一シルク製の肌着がそのストレスから解放してくれました。大人になるに従い、少しずつ改善していたものの、2度の妊娠・出産で再び症状が悪化。その時にも快適に着用できたのはシルク肌着でした。健康な肌で心穏やかな妊娠生活を送りたい。生まれ来る我が子をシルクという本物の素材で包んであげたいと思いつつも、シルクは洗濯などの取り扱いが難しく、日常的に使うには敷居の高い素材でもありました。

#### ② SHIDORI®との出会い

今から1年半前、主幹事業「エプロン企画販売」において、某百貨店様のオリジナル製品の開発過程で「いままでにないさらに上質で高級感のあるエプロンを作る」という課題をいただきました。デザイン、パターンメイキング、仕立てにはこれ以上ないこだわりを持っていた弊社が、さらに工夫できる余地があるとすれば生地のみ。さまざまな素材を調べていく中で、シルク100%にもかかわらず、綿や化繊と同じように洗濯機で洗えるという新素材「SHIDORI®」と

出会いました。エプロンなのにシルクでできている、その意外性に可能性を感じ、すぐに開発元の株式会社山嘉精練様にコンタクトを取ることとなりました。

### ③ 日本製シルクへのこだわり

「御社の生地でエプロンが作りたいから売ってください」と伝えたところ、返ってきた答えは「難しい」という一言。どうしても引き下がれずご面会をお願いしてお話を伺う中でその難しさを理解することとなりました。

というのも、日本製のシルク生地において、いつでも注文すれば買える在庫生地はほとんどなく、糸を発注、加工し、希望の仕様で編み立ててはじめて生地になるという生産の背景があるからです。そこからは同じ糸偏にしながらも経験したことの無いことの連続でした。

お蚕さんが生まれてからシルク製品が出来上がるまで、おおまかに数えても8つの工程があります。（養蚕→製糸→撚糸→精練→染色→絹織→整理加工→縫製）「できる限りの工程を日本でおこないたい」という一念で、試作の完成までに想像以上の時間を要することとなりました。

### ④ 縫製工場との取り組み

本製品の縫製については、下着のノウハウを持ち、特にベビー用品において「ホルムアルデヒドを検出しない」などの厳格な規定をクリアできる工場を見つける必要がありました。10件近く問い合わせするものの、ベビー用品を作れない、シルクを扱いたくない、ロットが合わないなど良い返事をいただく事が出来ませんでした。そんな中、唯一快諾してくださったのが、今回のお取り組み先様です。シルクの縫製には通常よりミシンのスピードを落として慎重に縫い上げる技術が必要とされます。「TAMAMONO」は奈良県の工場にて熟練の職人が一枚一枚丁寧に縫い上げてくださいます。

### ⑤ デザインへのこだわり

「生まれ来る我が子とすべてのあかちゃんに本物を届けたい」という思いで、一番最初にデザインに着手したのはベビー用の産着でした。

「SHIDORI®」を施すことで、綿より優しく、綿より強く、長く着られる「TAMAMONO」のシルク産着。しかし、そもそも半年ほどしか着ない産着には高価でもったいない仕様です。そんなジレンマの中、加藤が何気なく5歳長女に0歳次女の産着を着せてみたところ、少し工夫をすれば0歳から5歳まで着られることが分かりました。試行錯誤のうちに生まれたのが「ロングライフベビー産着」です。今後も、「TAMAMONO」は肌に寄り添う、上質で使う人の立場に立ったデザインを目指してラインアップします。

## 4. 「TAMAMONO」の描くシルクの未来

お取り組み先様との関わりの中で、皆さんが口を揃えておっしゃることには、日本において育まれてきた絹加工技術が、需要の減少と職人の高齢化、廃業などにより失われつつあるとのこと。生地に仕立てる機元やニッターさんも、デリケートなシルクの取り扱いに長けた産地はもう数えるばかりとなっている状況です。シルク産業が失われつつある原因はさまざまですが、日常生活における取り扱いの難しさで人々が離れていったというのも一因としてあげられます。

しかし「SHIDORI®」によりその難点が解消されたいま、伝統と先進技術を生かした製品により、シルクの素晴らしさに再び光を当て、シルク需要を回復できるのではないかと思います。「伝統にあぐらをかかずに、常に使う人の立場にたち、現代生活に即したシルクであれるよう、さらに進化を続けたい」という、山嘉精練山内社長様のお言葉に感銘を受けました。技術

は技術のままでは世の中に広がることはなく、それを製品化しなければ手に取っていただくことも出来ません。私の役割は山嘉精練様の技術とお客様の笑顔の橋渡しだと考えます。

エプロン事業を通じて出会った究極のシルクですが、辛い経験があったからこそ、同じ悩みを持つ方に製品として届けられるのは私しかいないという使命感を持っています。

素材の特性だけでなく、開発への思いを含め、製品化するパートナーとして、シルクの素材としての可能性を開拓し、現在ではシルクを苦手とする製品などでも積極的に用いることで、技術の保存・発展の役に立ちたいと願っています。

## 5. シルクが与えてくれる9つの恩恵

シルクの質感の素晴らしさはどなたでも知るところです。しかし実は9つもの良さがあることはあまり知られていません。それこそが肌に一番近いところで使っていただきたい理由です。

「TAMAMONO」によりシルクの素晴らしさを認知していただくことにつながればと思います。

### ①「しなやかさとすべやかな質感」

細く均一で断面が三角形の形状のため繊維内部で光を反射し、独特の光沢感としなやかさ、肌で感じる暖かさが生まれます。

### ②「肌に優しい」

18種類のアミノ酸を含むたんぱく質からなる、お肌に最も近い天然繊維で、人体への生体適合性が高く刺激がないためアレルギー体質の方にも安心してお使いいただけます。

### ③「埃が出にくい」

独自の吸湿性により摩擦による帯電が生じにくく埃やチリをよせつけにくいため、アレルギーや喘息の予防にもつながると言われています。

### ④「防臭・消臭効果」

微生物の繁殖を抑制して、肌を正常な状態に保つ抗菌性により消臭防臭効果も期待できます。

### ⑤「吸湿性・放湿性」

綿の約1.3倍の吸水性、1.5倍の放湿性を持ち、余分に取り入れた湿度を外気放湿する作用もあるので、汗をかき季節もさらっと快適にすごせます。

### ⑥「保温性」

繊維と繊維の間に空気を多く取りこみ、体熱を繊維の中に閉じ込めて逃がさないで薄くても暖かさを保てます。

### ⑦「美肌効果」

シルクに含まれる天然の保湿成分は肌への吸着性も高く、身につけていると肌に潤いを保ち、乾燥から守ります。

### ⑧「安全性」

シルクの強度は、同じ糸番手の綿や羊毛より強く、化学繊維とは異なり300度以上でしか燃焼・溶解しないため危険性が少ないと言えます。

## ⑨「UVカット」

たんぱく質に含まれるアミノ酸が有害な紫外線をカットします。

## 6. 私が事業を通して実現したい世界

私自身、社会的には会社を経営するという立場ではありますが、第一子を授かった時から、何をおいても、人生の本分は親であることだと肝に命じています。子どもたちの健康と明るい未来を守るために、食、国土、自然、環境、産業を守ることはかけがえのない使命です。物が安く大量に作られる時代に、便利さに慣れすぎてその背景にどんな労働力が使われているのか、資源は守られているのかに目を向けることは難しいことです。しかし、環境や携わるすべての人が幸福である商品、小さくても思いのある会社の製品として選んでいただけるように努力をしたいと思っています。

食については、一家団欒や手作りご飯の促進にエプロンがお役に立てたらと考えていますし、健康についてはアレルギーなどから肌を守る天然素材シルクでの下着の開発も手がけています。それらの生産は国内で行うことを旨としています。今後も、「自分の子どもに繋いでいてもらいたいもの」という目線での製品開発を行い、母として、経営者として思いを形にしていける姿を子どもたちに示していけたらと思います。

また、そのような製品と同時に、季節の行事や日本食、伝統などを伝えることも家庭での日常を超えて、企業としても取り組むことの大切さを感じます。こういったことこそ、手間がかかり、便利とはほど遠いもので、大量生産大量消費の時代には忘れ去られゆくものです。

《もの=商品》だけではなく、《こと》を伝えていくためにも、味噌作りや真綿（シルクの綿）引きなど、日本古来の衣食住にまつわることを親子と一緒に学べたり、また、お買い求めいただいた商品を修理、リメイクしたり、経年で黄ばんだものを染め直したりしていただける場所を持ち、気に入ったものを大切に使用いただきながら、お客様との末長いよきお付き合いができる関係を築いていきたいと思っています。

私は、自社の経営活動と個人のライフワークを一気通貫して、「日本の伝統、衣食住の継承」を切り口に《ものこと》を提供しながら、「便利ではないけどあたたかみのある日本」を残すことのお役に立ちたいと願っています。

## 7. エレグランスのビジョン

「断捨離」という言葉が浸透していますが、大量にものが溢れる中で、吟味せずに買ったもの、こだわりのないもの、手が届きやすい価格だから買ったものは愛着も湧かず捨てられ行くものだと思います。

物が安く大量に作られる時代において、弊社は創業時より、日本の縫製の手仕事にこだわり製品化し続けています。安くも大量にも作ることはできません。ですが、創業から6年経った今でもファーストモデルを現役で使ってくださっているお客様はたくさんいらっしゃいます。世の中のエプロンと比較すると高価なお買い物だったと思いますが、これだけ長い間お使いいただけるのであればきっとそのお買い物にご満足いただいていると安心していきます。物を無下に捨てられない理由としては、誰がどんな想いで作っているかお客様自身をご存知であること、長年使用出来る高品質であることがあげられます。

今後もシルク肌着中心の「日常生活に優しく寄り添うホームファブリックブランド」として、使い捨てではない「丁寧に作られたもの」を届け、その使い心地で人生が変わるほどご満足いただくことが弊社の役割です。

素材には命があり、工程一つ一つに人が居て、そこには歴史と生活があるという、生産の背景も含めてお客様にお伝えし、製品をお渡ししていくことが必要だと感じています。その先に、愛着を持って長い間人生に寄り添うアイテムでいられたら嬉しく思います。

弊社は、そのような製品の開発と拡販を通じて、さらに多くのお仕事を国内産業の中でお願いし、経済を循環させることをビジョンの一つとして掲げています。

そして、私自身子どもを連れながら働き、ライフスタイルの変化にも変わらず、想いを形にする仕事をさせていただいていることはとても幸運なことだと思います。このような働き方ができる職場として、より多くのさまざまなライフステージの女性の雇用を創出していきたいと思えます。

===本リリースのお問い合わせ先===

株式会社エレグランス 担当：加藤(090-8228-4892)

〒107-0062 東京都港区南青山3-10-41 ジュエル青山801号

info@elegrance.com | <http://tamamono.co.jp/>